

いわき市で 夏休み親子教室を開催しました

- ・ 目的：放射線に関する講演、実習を通して、放射線に関する基礎的な知識や放射線は身近にあること、測ることができること等を家族で学習する。
- ・ 開催日時：令和8年7月31日（金）10:00～11:30
- ・ 開催場所及び講師：いわき市総合保健福祉センター［加藤徹（原子力安全研究協会）］
- ・ 受講者：いわき市の小学校に通う児童とその保護者や家族 計21名
- ・ 内容：
 - －放射線のおはなし
 - －ブース体験（身の回りのものの測定、JAEA 四足歩行ロボット操作、霧箱観察、測定器の展示、〇×クイズ）
 - －NARREC からおはなし
 - －まとめ、しゅもんタイム
- ・ 概要：放射線のおはなしでは、放射線は身近にあること、量が多すぎると危ないこと、目には見えないが測ることができること等を学習した。ブース体験では、GM サーベイメータを使用し、身の回りにある食べ物や肥料等から放射線が出ていることを確認し、ロボットの操作体験を行った。他にも、様々な測定器の説明を受け、放射線に関する〇×クイズや霧箱観察を行い、最後に質疑応答を行った。参加者からは、「放射線について詳しく知ることができ、測ることもできて勉強になった。またこのような機会がある時は参加したい。」「福島の人にとって『放射線』という言葉はマイナスのイメージしかないが、子どもたちに身近なものであり、使い方によっては大きな役割を果たしているということを教えてあげてほしい。」等の意見があった。

【質疑応答】

- ・ 放射線は恐竜がいる時代にもあったのか。
→放射線は宇宙が生まれた時からあるため、恐竜がいる時代にもあった。
- ・ 放射線はどれくらい速いのか。
→とても速い。放射線は様々な種類があり種類によっても速さが違う。
- ・ モニタリングポストの数値が高くなるまでの時間の方が、低くなるまでの時間より短かったのはどうしてか。
→モニタリングポストは瞬間的に測っているわけではなく平均の値を表示している。放射線はばらばらに飛んでいるため、数値が高くなったり低くなったりするまでの時間が様々である。



「放射線のおはなし」の様子



ブース体験の様子